

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立川口青陵高等学校)

目指す学校像	「学舎のルールを大切にする」精神を基に、主体的に学び、自立できる生徒を育成し、地域との「協働」に挑戦する学校
--------	--

重点目標	1 学習支援を充実させ、生徒の「学び」を多角的に評価することで、伸びる生徒をさらに伸ばす。 2 基本的生活習慣の確立から自律心と社会性を身に付けさせ、3年間を見通した進路指導を実現する。 3 学校の情報発信と地域との「協働」を積極的に推進し、社会に貢献できる生徒を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 3 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 ○川口青陵アワードを積極的に広報し、受賞者が10%を超えるようにしたい。資格取得状況はやや伸び悩んでいる。 ○アクティブ・ラーニングについては、今年度も継続して授業公開を実施し、授業改善の流れを確実なものにしていく。 【課題】 ○学校全体で生徒の基礎学力を高める仕組みが必要である。 ○協調学習を継続して実施し、教員の指導力向上を図る。	○学習意欲を高め、伸びる生徒を伸ばす。 ○組織的な学習支援体制を充実させることにより、指導力向上を目指す。	①朝学習の実施により、学習習慣の定着を図る。 ②「川口青陵アワード」を積極的に広報し、奨励する。 ③資格取得を目指し、奨励する。(漢字検定、ワープロ検定、英語検定等) ①教員の指導力向上を図るため、授業公開・研究授業を実施し、生徒の学習意欲を高める。 ②協調学習等や研究授業を展開し、教員相互の学び合いを増やす。	①学校評価アンケート「朝学習にしっかり取り組んでいる。」90%以上。 ②全校表彰される生徒数及び「川口青陵アワード」受賞数10%以上。 ③資格取得者数の増加。(3級以上) ①学校評価アンケート「授業はわかりやすい。」70%以上。 ②協調学習等による授業公開1年5回以上の実施。研究授業1年5回以上の実施。	伸びる生徒を伸ばす指導が概ね達成。 ①「朝学習にしっかり取り組んでいる。」1年82.6%、2年86.4%、3年56.8%回答。 ②青陵アワード受賞6.4%(昨年7%) ③漢字検定93名、ワープロ検定78名、英語検定10名。 指導力向上の取組がほぼ達成できた。 ①「授業はわかりやすい。」74.1%回答。 ②授業公開を年5日実施。研究授業を、初任研・5年研等で9回実施。教員相互授業観察を実施。	B	今年度より朝学習を実施し、学習習慣の定着により成果が見られたものの、内容については改善が必要。資格取得に向けた取り組みには、来年以降も、さらに上位級の合格者が増えるように、資格取得を奨励し、授業改善に取り組む。 授業公開を年5日間実施、研究授業や教員相互授業観察を行い、教員の指導力向上に努めた。学校内での研修回数を増やし、さらなる指導力向上に取り組む。
2	【現状】 ○自立の基盤を確立するためには、挨拶、時間を守るなど社会的なルールを守る態度とコミュニケーション能力の向上が必要と考える。 ○部活動加入率は、昨年6月の調査で68.9%である。 【課題】 ○生徒の進路希望を実現させるため、3年間を見通した組織的な取組を実践していくことが必要である。 ○学び舎のルールを大切にすため、基本的生活習慣を確立させる。 ○部活動を活性化させるため、加入率を高める取組を引き続き推進する。	○3年間を見通した進路指導の充実を図る。 ○基本的生活習慣を確立させるため、生徒指導の充実を図る。 ○学校行事に主体的に参加させ、部活動の活性化を図る。	①進路希望を実現するため、進路ノートの活用と面談の実施。 ②ベネッセ基礎力診断テスト実施。 ③学力増進講座の実施。 ④進路説明会・進路別見学会・進路講演会等の計画的な実施。 ①挨拶の励行。 ②整容指導の徹底。 ③交通マナーの徹底。 ④全教員で一斉指導の実施。 ①部活動体験会・部活動見学を実施し、加入率を向上させる。 ②学校行事や大会結果をHP・生徒会通信で積極的に発信する。	①進路未決定者数を0に近づける。 ②ベネッセ基礎力診断テストの年3回実施。 ③長期休業中に学力増進講座を実施。 ④学校評価アンケート「進路指導は充実している。」90%以上。 ①学校評価アンケート「挨拶・言葉遣いができている。」90%以上。 ②学校評価アンケート「服装や頭髪等のルールを守っている。」90%以上。 ③交通事故件数の減少。 ④月1回一斉指導を実施。 ①部活動の加入率70%以上を目指す。 ②各部活動のHP更新回数を年間平均5回以上。生徒会通信を年間12回以上発刊。	進路指導の充実が概ね達成できた。 ①進路未決定者3/15現在15名。 ②1・2学年が年3回実施。 ③夏季休業中、学力増進講座全学年で実施。 ④「進路指導は充実している。」88.5%回答。 生徒指導の充実がほぼ達成できた。 ①「挨拶・言葉遣いができている。」92.6%回答。 ②「服装や頭髪等のルールを守っている。」96.0%回答。 ③H27 9件⇒H28 11件(+2) ④毎月1回全教員で一斉指導を実施した。 部活動・学校行事の活性化が概ね達成。 ①部活動加入率61.2% ②2/13現在、各部活動5.9回更新、生徒会通信12回発刊。	B	生徒の第1希望の進路を実現させるため、多角的な方法で実現に向けて指導してきた。進路未決定者については、今後も働きかけを行っていく。 生徒指導は全職員で実施し、落ち着いた学校生活が送られるようになり、一定の成果が得られた。今後も規律を徹底させ、しっかりと学校生活を送れるよう指導していく。 各部活動のHPには、学校行事や大会結果の情報発信を積極的に行ったが、部活動の加入率70%以上が達成できず。来年度は学校行事をさらに盛んにさせ、生徒会活動と連携し、さらなる部活動の活性化を目指す。
3	【現状】 ○本校PTA・後援会は「心のカレンダー」等の家庭教育への支援の取組が評価され、「教育ふれあい賞」を受賞したことは高く評価できる。 ○HPは更新回数・アクセス数が増えている。 【課題】 ○PTA・後援会の協力を得て、引き続き積極的な広報活動を展開したい。 ○地域への貢献活動を積極的に推進する。	○PTA・後援会との連携を図る。 ○地域貢献と、魅力ある情報発信を行う。	①学校評議員会・学校懇話会・PTA理事会・PTA総会での意見や要望を学校運営に活かす。 ②PTA理事会・PTA総会にて講演会等を実施し、参加者数を増やす。 ①学校説明会や学校見学会の工夫改善を図り、中学校や学習塾の訪問を全教員で実施する。 ②HPをリニューアルし、学校の情報発信を積極的に行う。 ③地域に貢献するため、公開講座の実施や校外において積極的に奉仕活動に参加する。	①学校評価保護者アンケート「本校に入学してよかった。」あてはまる・ほぼあてはまる。(入学満足度90%以上) ②PTA理事会・PTA総会の参加率。 ①学校説明会や学校見学会参加者数の延べ1000人以上。 ②HPのアクセス数の7%増。(H27月平均7482⇒8000) ③夏季公開講座を4講座実施、ふれあいクリーン作戦を年間10回実施。校外奉仕活動・ボランティア活動の参加者数。	PTA・後援会との連携がほぼ達成できた。 ①「本校に入学してよかった。」95.1%回答。 ②PTA理事会18.5%・PTA総会21.7%の参加率。 地域貢献と情報発信がほぼ達成できた。 ①説明会・見学会に延べ1,192名参加。 ②2/13現在アクセス数85282回、月平均8528回目標達成。 ③夏季公開講座を4講座開講、ふれあいクリーン作戦を年間10回実施。ボランティア活動に5部活動延べ140名が参加。	A	PTA・後援会と連携し、学校行事を運営することができた。今後も、PTA・後援会からの意見を受け止め、学校運営に活かしていく。 学校説明会等には延べ1000人以上の参加、またHPをリニューアルし、積極的な情報発信を行うことができた。来年度も継続して実施する。 夏期公開講座の実施や、郊外奉仕活動・ボランティア活動をさらに積極的に行い、地域貢献から信頼される学校を目指す。

学校関係者評価
実施日 平成29年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等
目指す学校像と評価項目のつながりがあり、学校の方向性が見えて良い。具体的な方策により「面倒見の良い学校」ということが伝わり大変良い。朝学習が定着し、学習面で成果があることを期待したい。 伸びる生徒を伸ばすということでは、個に視点を当てて評価すると分かりやすい。生徒が意欲を持てるような方向性、意欲を持てる取組が必要である。様々な角度から実施できるものを検討し、取り組んでいただきたい。
進路について、進路選択が適切であったかどうか、追跡調査を必要になるので、今後、追跡調査を検討していただきたい。 生活指導を基礎に、学力向上を目指す方向性を高く評価する。学校生活が落ち着いてきていることが分かる。 自転車の交通安全指導については、今まで以上に注意喚起をし、指導を行っていただきたい。もしもの時のために、保険について学校で紹介していただきたい。 部活動の活性化を図ることは、学校の活性化につながり大切なことである。部活動加入率を上げるためには、部活動を続けさせるような取り組みを行って欲しい。
「本校に入学してよかった。」は、アンケート結果として大事な指標になるので、意識をして教育活動を行っていただきたい。 地域貢献することは、生徒の自己存在感や有用感を高めていくことができるので大変良い教育効果がある。引き続き、地域に貢献する活動を行っていただきたい。外部団体のボランティア活動も多数行われているので、川口青陵高校として参加していくことも検討してもらいたい。